

された。作業療法士は「さしこ刺繍」を紹介する。図案にそって針を進めるといふ単純作業であるが、ベッド上で自分のペースで行うことができる。この作業活動は針で布を刺し貫くという行為から攻撃性の発散になり、単調な繰り返しが精神の沈静化を図ることができる。A氏は当初「刺繍ですか？できるかなあ」ととまどいをみせたものの、どんどん作業に集中するようになり多くの時間をさしこ刺繍に費やすようになった。家族が驚く熱中ぶりで次々と作品を作り、周囲にプレゼントし、その過程で穏やかな表情がみられるようになった。最後には自ら選んだ聖書の言葉を刺繍し、病室に飾って過ごした。

患者にとって治療の合間の空白の時間に、一人きりでベッドの上にじっと横になっているときが最も辛い時間になることがある。A氏にとって作業活動は自分に残された時間とエネルギーを有効に活かすための手段となり、さらに自分自身の内面にあった葛藤を処理することの助けとなったと思われる。

今後の課題

がん医療における作業療法士の役割について述べた。今後の課題としてはまず作業療法士自身が積極的にがん医療に参加し、経験を積み、作業療法の必要性をアピールしていくことが重要である。さらにがん医療や緩和ケアについて各専門職の教育、研修の充実を図ること。チーム医療の充実のため各専門職が互いの役割を認識し、協力と連携を図ること。この3点が具体的に実行されることが急務であると考ええる。

【文献】

- 1) 岩谷力, 土肥信之編. 臨床リハビリテーション. 悪性腫瘍と神経変性疾患. 東京: 医歯薬出版; 1991
- 2) 辻 哲也編. 実践! がんのリハビリテーション. 東京: メヂカルフレンド社; 2007.
- 3) 目良幸子, 川谷睦美, 霜鳥なつみ. ホスピスにおける作業療法の役割. 作療ジャーナル 1992; 26: 671-5.

今月の

用語

隣に伝えたい 新たな言葉と概念

【サイコオンコロジー】

【英】 psycho-oncology 【略】 特になし
【同】 精神腫瘍学, 類義語 (日本語) がんの心身医学

〈解説〉サイコオンコロジー (精神腫瘍学) は、1970年代米国で創設され、わが国では1980年代よりがん医療の一分野として発展してきた。サイコ=心理・精神 (こころ), オンコロジー=腫瘍学を組み合わせたのが語源とされている。

このサイコオンコロジーは、がんの予防、検査、診断、治療、リハビリ、終末期などすべての病期にわたり、患者、家族、医療スタッフに対して、心身両面への影響 (①がんがこころや行動に与える影響, ②こころや行動ががんに与える影響) に配慮した学際的で、全人的な臨床医学・医療である。

わが国ではまだ希少であるが、このがん医療における「こころ」を専門的に取り扱う医師 (精神科医や心療内科医) をサイコオンコロジスト (精神腫瘍医) と呼んでいる。また広義の解釈では、サイコオンコロジーの専門的知識や技術をもつ看護師、心理士、ソーシャルワーカー、理学療法士、作業療法士、薬剤師なども含むとされており、本分野ががん医療において学際的、多職種チーム医療を臨床実践する特徴を示しているといえる。

〈関連学会〉日本サイコオンコロジー学会 (<http://www.jpos-society.org/>), 日本緩和医療学会, 日本心身医学会, 日本総合病院精神医学会, 日本死の臨床研究会, 日本がん看護学会, 日本臨床腫瘍学会など

(所 昭宏)